

令和4年度「GREEN SEA 瀬戸内ひろしま・プラットフォーム（GSHIP）」の取組状況について

1 趣旨・目的

2050年までに瀬戸内海に新たに流出するプラスチックごみゼロを目指すため、令和3年6月に設立した、「GREEN SEA 瀬戸内ひろしま・プラットフォーム（GSHIP）」*の令和4年度の取組状況について報告する。*製造・流通・消費に関する企業・団体・市町等 計109者で構成（R5.5.23時点）

2 現状・背景

GSHIPでは、①プラスチックの使用量削減、②プラスチックごみの流出防止、③清掃回収、④情報発信の4つのワーキンググループを設置し、参画会員と連携・協力しながら、取組を検討・実施している。

3 概要

(1) プラスチック使用量削減の取組

令和4年4月に施行された「プラスチック資源循環促進法」を踏まえ、令和4年度から新たに、生活由来の海洋プラスチックごみ対策に資する先進的な取組を行う企業等へ支援（リーディングプロジェクト支援補助金）を行っており、5件の事業を採択し、取組を実施した。

連携企業・団体等	主な取組内容（概略）	参考
シンギ、TSS、オタフクソース、小売店 等	○ <u>植物（サトウキビ）由来の「バガスモールド製お好み焼容器」</u> をオタフクソースとの連携により開発 ○10月から順次、 <u>お好み焼店や小売店等での導入を進め、メディア等と連携し、普及促進活動を実施</u>	①
ダイセル、近畿日本ツーリスト商事、宿泊事業者 等	○ <u>海洋生分解性プラスチック素材の宿泊アメニティ（歯ブラシ）の開発、利用促進</u> ※ 県内の宿泊施設での採用が決定 ○ <u>使用済み製品の回収及び回収物のカキ養殖パイプ等への再利用検討等</u> を広島県立総合技術研究所等と連携し実施	
三菱ケミカル、キリンビバレッジ、全清飲、リコー、大竹市 等	○ <u>産学官民連携による飲料ペットボトルの3分別回収の促進やプラスチック資源のリサイクルに対する啓発活動、飲料ラベルの水平リサイクル実現に向けた調査・検証等</u> を実施	
ユニリーバ、イズミ、そごう広島店 等	○ <u>ポイント還元によるインセンティブを付与し、生活系使用済みプラスチック容器（シャンプー等）の店頭回収</u> をそごう広島店、イズミ2店舗において、8月から順次開始 ○ <u>回収した空容器は「地域資源循環モデル」として、カードケース等に再製品化し、地域イベント等で活用</u>	
Loop Japan、イオンリテール	○ <u>中四国初となる、デポジット制の容器再利用（リユース）による循環型ショッピングプラットフォーム「Loop」</u> を県内イオン9店舗にて、9月末から展開開始（食品や飲料など20品目を取り扱い）	

※連携企業・団体等下線部：補助金申請者（代表事業者）

(2) 流出防止の取組

実施時期	主な取組内容（概略）	参考
R4. 10～R5. 3	○中四国初となる、IoT技術を活用したスマートごみ箱「SmaGo」を、カルビーやICT関連企業等と連携し、 <u>県内4地点・計12台</u> を設置。周辺の散乱状況やごみ回収業務の効率化等について、分析・検証 ※ 回収事業者へのヒアリングの結果、 <u>周辺の散乱状況が改善され、回収に係る作業時間も短縮された</u> との声があった。	②
R4. 11～	○全国清涼飲料連合会等と連携し、 <u>自販機横の新機能リサイクルボックスの普及促進</u> とともに、 <u>新機能リサイクルボックスにナッジ理論を活用した啓発シールを貼付</u> した上で、貼付前後でのポイ捨て防止及び周辺の散乱防止効果を検証 ※ ナッジシールの貼付により、一部を除いて、 <u>周辺の散乱状況が改善された</u> ことが確認された。	③

(3) 清掃回収の取組

実施時期	主な取組内容（概略）	参考
R4. 11. 7 R5. 3. 15	○離島海岸等の <u>立ち入り困難エリア</u> での清掃活動の実施 ・日本財団及び大竹市等と連携し、大竹市・阿多田島長浦海岸において、発泡スチロール製のフロート等を回収処理（R4. 11. 7） ・NPO法人SAREN等と連携し、無人島である江田島市・大奈佐美島での清掃活動を実施（R5. 3. 15）	④
R4. 11. 6 R5. 2. 12 R5. 3. 25	○参画会員等と連携した <u>海岸清掃</u> の実施 ・尾道市・因島しまなみビーチ及び梶ノ鼻海岸（R4. 11. 6） ・G7広島サミットを契機としたGSHIP連携清掃活動を、元宇品海岸（R5. 2. 12）及び宮島包ヶ浦にて実施（3. 25）	④
R4. 6～	○各地域で予定されている <u>清掃活動の実実施計画を情報収集及び集約・一覧化し、申込希望のGSHIP参画会員とのマッチング</u> を実施	—

(4) 情報発信の取組

実施時期	主な取組内容（概略）	参考
R4. 8末～	○ <u>海ごみ関連情報</u> （各地域での清掃活動の実実施計画や海洋プラスチックごみ対策に係る先進事例の紹介等）を <u>一元的・統一的に集約した、ウェブサイトを新規開設</u>	⑤
R4. 10. 4～24	○環境省「令和4年度ローカル・ブルー・オーシャン・ビジョン推進事業」採択事業として、 <u>そごう広島店を拠点に、参画会員等の海ごみに係る環境配慮商品の展示・販売や情報発信、環境学習等</u> を実施	⑥
R5. 2. 13	○環境省「 <u>プラスチック・スマートシンポジウム2023</u> 」を広島県民文化センターにて開催 ※ 自治体と企業等の連携による海洋ごみ対策に係る先進的な取組事例の紹介やパネルディスカッション等を実施	—

4 今後の対応

- 使用量削減について、令和4年度に成果の得られた取組の社会実装化に向けて、販路拡大のためのマッチングや広報の強化など、積極的なフォローアップを行う。また、さらなる取組拡大に向けて、令和5年度においても新規案件を採択したうえで、効果的な実証となるよう、市町との調整や参画会員との連携など伴走型の支援を実施する。
- 流出防止に向けた、参画会員と連携した屋外回収拠点の多様化によるモデル事業、活動団体と参画会員とのマッチングによる清掃回収の拡大、メディアと連携した情報発信の取組を順次検討・実施する。
- その他、国や関連団体等が実施するシンポジウムなどの機会を通じて、本県の取組を継続的に情報発信するとともに、県民への海洋プラスチックごみ削減に向けた機運を醸成する。

【参考】取組の一例

①リーディングプロジェクト支援補助金での取組



お好み焼用バガスモールド容器の開発・普及促進



海洋生分解性プラスチック（酢酸セルロース素材）による歯ブラシ



ペットボトルの3分別啓発に向けたポスターコンテスト



シャンプー等の使用済みプラ製品回収BOXの設置



「Loop」返却回収BOXと商品一例

②IoT スマートごみ箱「SmaGo」を活用した屋外での回収拠点の多様化に向けた効果検証



カルビー伊藤社長、湯崎知事によるデモンストレーション



福屋八丁堀店前に設置した「SmaGO」

③ナッジ理論を活用した自販機横の新機能リサイクルボックス設置による効果検証



ナッジシールを貼付した新機能リサイクルボックス

4パターンのナッジシールを貼付し、周辺の散乱状況等を把握左記の【ウォーム・グロー（社会的選好）】イラストバージョンが最も効果があった。

④清掃活動の実施



阿多田島での回収作業の様子（日本財団笹川会長、湯崎知事）



GSHIP 会員連携清掃活動



因島・梶ノ鼻海岸の様子

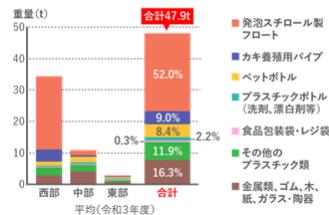


G7広島サミットに向けた参加者の応援メッセージ

⑤海ごみ関連情報サイト



トップページ



R3 年度県内海岸漂着物量調査の結果を分かりやすく可視化

⑥そごう広島店を拠点とした環境省「ローカル・ブルー・オーシャン・ビジョン推進事業」



展示の様子



ウィンドウにて海を表現